

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が261例(男性119例(10歳代9例, 20歳代26例, 30歳代14例, 40歳代22例, 50歳代22例, 60歳代10例, 70歳代10例, 90歳代2例, 年齢非公開4例), 女性140例(10歳代19例, 20歳代45例, 30歳代17例, 40歳代15例, 50歳代19例, 60歳代7例, 70歳代13例, 80歳代2例, 年齢非公開3例), 未就学児2例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は2,264例となりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(60歳代男性)あり, 症状は水様性下痢, 発熱です。本年の累積報告数は22例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が3例(90歳代男性1例, 40歳代及び50歳代女性各1例)(第49週追加報告分1例含む)ありました。本年の累積報告数は37例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(50歳代女性)ありました。症状は発熱, 咳, 肺炎, 菌血症です。感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は23例となりました。
- 梅毒の報告が1例(30歳代男性)(第49週追加報告分)ありました。症状は硬性下疳で, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は55例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
京都市では, 平日及び土日の昼間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を予約制で実施しています。詳細については, 下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>
- インフルエンザは, 市内69の定点医療機関からの報告は1例のみです。現状では全国及び京都市で流行の兆しは見られませんが, 予防を心がけましょう。予防策としては, 手洗い, うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

◆ 今週のトピックス: <カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症>

京都市では2020年第50週にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(carbapenem-resistant Enterobacteriaceae, 以下, CRE)感染症の報告が2例あり, 本年の累積報告数は37例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域[※], 感染経路[※]の順に掲載。)

- 二類: 結核 2例(肺結核なし, その他結核なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性なし)
【1月以降の累積報告数 242例(肺結核 108例, その他結核 54例, 潜在性結核感染者 80例)うち喀痰塗抹陽性 50例】
- 指定感染症: 新型コロナウイルス感染症 261例【1月以降の累積報告数 2,264例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 22例】
- 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 37例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 23例】
- 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 55例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.81	78
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.44	19
	③ 咽頭結膜熱	0.42	18
	④ ヘルパンギーナ	0.21	9
	⑤ 水痘	0.16	7
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

【次ページ以降の主な内容】

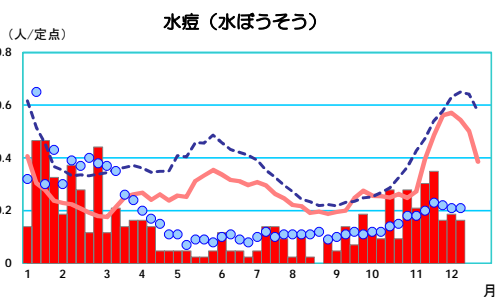
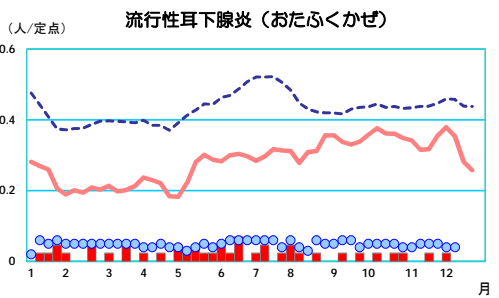
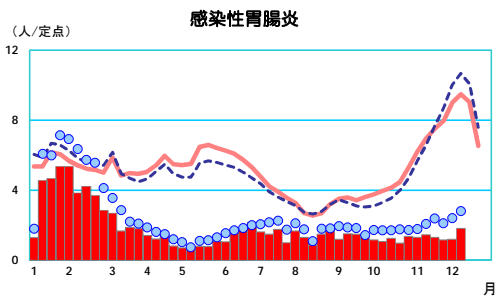
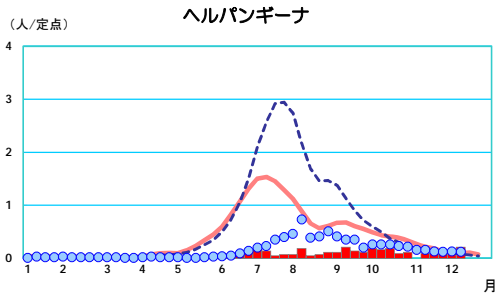
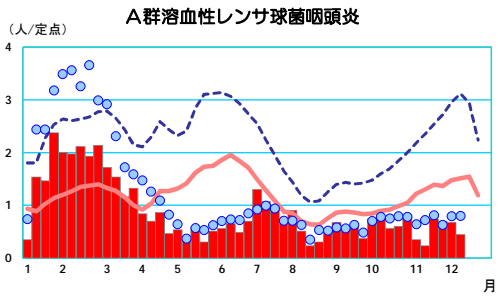
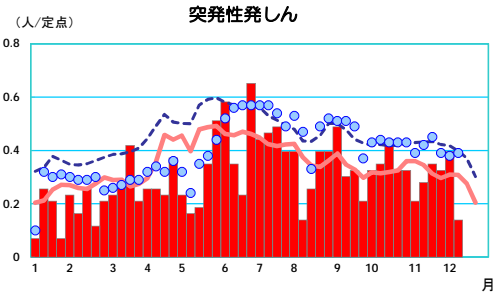
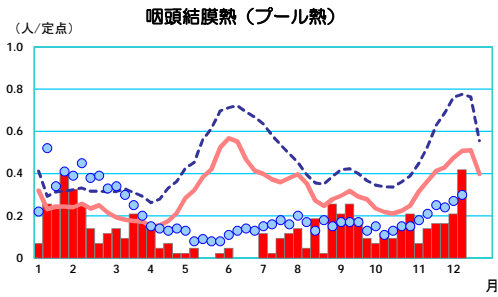
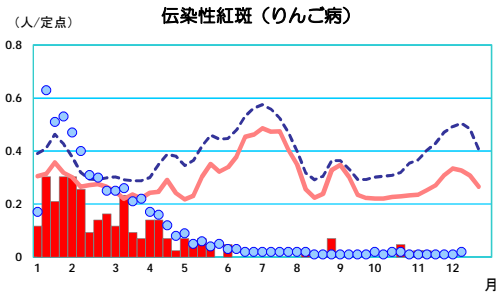
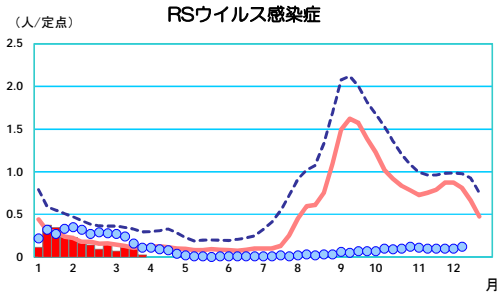
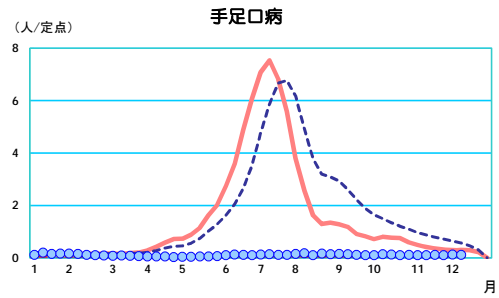
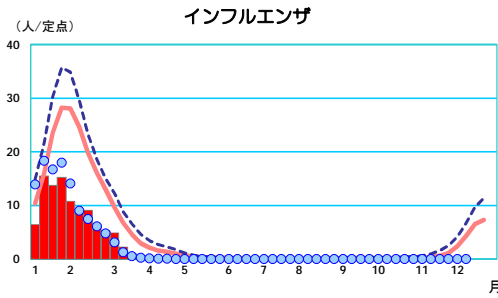
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2020年12月16日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

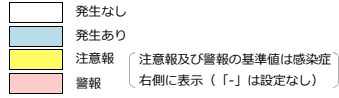
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

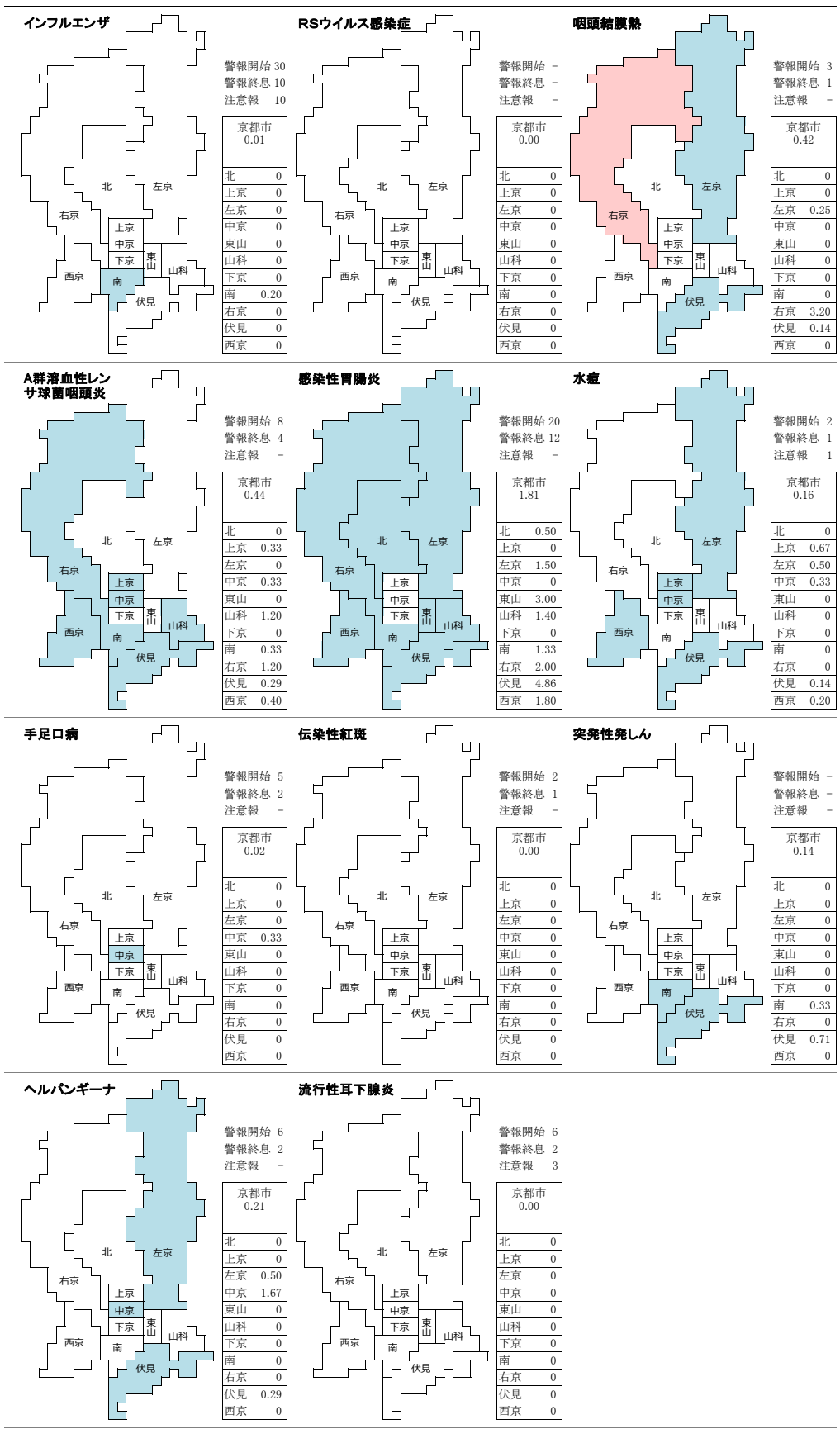
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第50週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第50週(12月7日～12月13日) トピックス: <カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症>

京都市では2020年第50週にカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(carbapenem-resistant *Enterobacteriaceae*, 以下, CRE)感染症の報告が2例あり, 本年の累積報告数は37例になりました。CRE感染症は2014年9月19日より全数把握疾患に追加されました。本市の年間報告数の推移を見ると, 2017年までは年間30~35例程度であり, 2018年及び2019年には年間45例以上に増加したものの, 本年は2017年までの傾向に概ね近いと考えられます(図1)。全国は2017年まで年間1600例程度で季節変動もなく報告されていましたが, 2018年及び2019年は夏から秋にかけて増加する傾向が見られ, 累積報告数は年間2300例程度に増加しました。本年は本市と同じく2017年までと同様に推移しています(図2)。年齢層の推移を見ると, 本市では2014年を除き70歳代以上で全体の60%以上を占めており, 全国でも同様の傾向です(図3, 4)。また, 本市と全国のどちらでも, 男性がやや多い傾向にあります(表1)。

抗菌薬は細菌を殺したり増殖を抑える働きがある薬剤のことで, 処方された抗菌薬を用法用量を守らずに使用したり, 適切でない抗菌薬を使用したりすることで, 抗菌薬が効きにくい細菌が出現することがあります。このような細菌を薬剤耐性菌と呼び, 特に複数の抗菌薬が効きにくいものを多剤耐性菌といいます。CREも多剤耐性菌のひとつで, カルバペネム系抗菌薬を含む広域β-ラクタム系抗菌薬を分解する酵素を作る, 大腸菌や肺炎桿菌などの腸内細菌科細菌の総称です。

なお, CRE感染症の他に, バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症とバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)感染症, 多剤耐性アシネトバクター(MDRA)感染症が全数把握疾患に, 多剤耐性緑膿菌(MDRP)感染症が定点把握疾患に指定されています。

CRE感染症は健康な方にとっては通常の手洗いや消毒などで十分に防ぐことができます。しかし, 免疫機能の低下した患者や手術後の患者, 抗菌薬を長期間に渡って使用している患者にとっては, 尿路や呼吸器, 肝胆道系, 敗血症, その他各種感染症の原因となり得ます。CREは自然界や人体に生息する元の細菌から病原性が変化しているわけではありませんが, 各種抗菌薬を用いても治りにくいうえ, 感染症対策が不十分であると院内感染を引き起こすこともあり, 問題となっています。

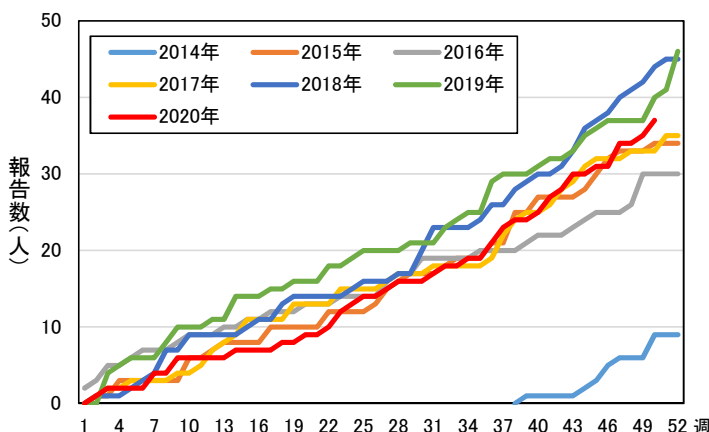


図1. 京都市のCRE感染症の累積報告数*

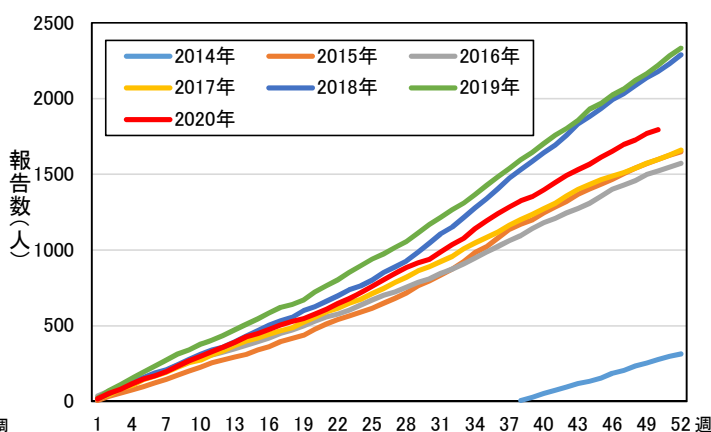


図2. 全国のCRE感染症の累積報告数*

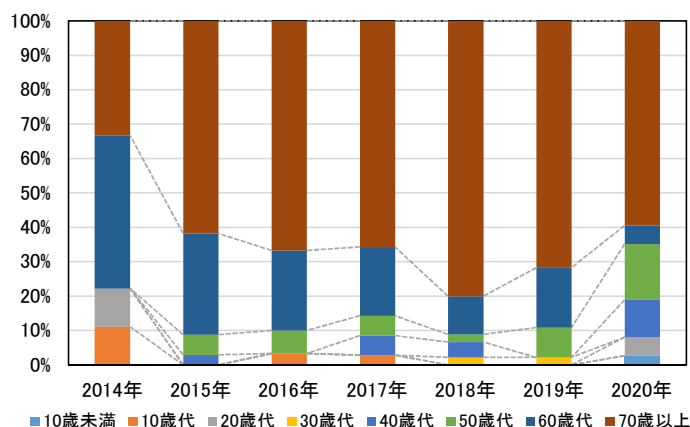


図3. 京都市のCRE感染症の年齢階級別割合*

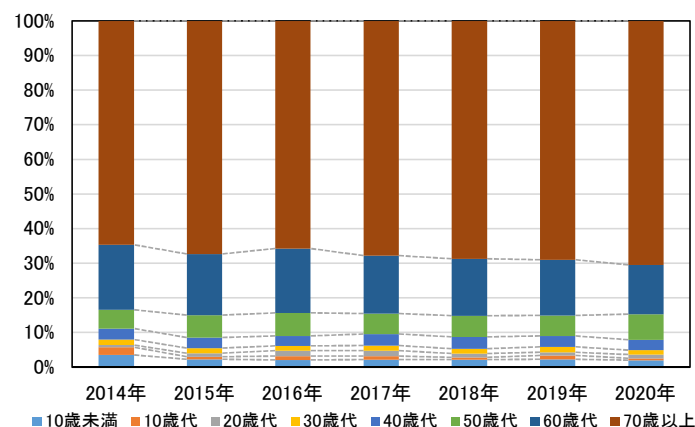


図4. 全国のCRE感染症の年齢階級別割合*

表1. 京都市及び全国の報告数の推移*

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
京都市	男	6 (66.7%)	24 (70.6%)	16 (53.3%)	20 (57.1%)	32 (71.1%)	29 (63.0%)	26 (70.3%)
	女	3 (33.3%)	10 (29.4%)	14 (46.7%)	15 (42.9%)	13 (28.9%)	17 (37.0%)	11 (29.7%)
	合計	9	34	30	35	45	46	37
全国	男	190 (60.5%)	1039 (62.2%)	974 (61.9%)	1024 (61.7%)	1460 (63.8%)	1481 (63.5%)	1101 (61.3%)
	女	124 (39.5%)	632 (37.8%)	599 (38.1%)	636 (38.3%)	829 (36.2%)	852 (36.5%)	694 (38.7%)
	合計	314	1671	1573	1660	2289	2333	1795

本文は以下のウェブサイトを参考に作成(以下, 全て2020年12月16日閲覧)。
 ○国立感染症研究所「米国CDCが警告を発したカルバペネム耐性腸内細菌に関するQ&A」
 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/drug-resistance-bacteria-m/3306-carbapenem-qa.html>)
 ○東京都感染症情報センター「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」
 (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/cre/>)

*…2020年は, 第1週～第50週までの集計結果を表している。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第50週

疾病,行政区別報告数

2020年12月7日～2020年12月13日

データ入手日:2020年12月16日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	1	-	6	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	1	-	1	1	-	-	5	-	-	2	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	6	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	1	-	-	1	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	16	6	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	2	34	1	-	-	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	2	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	1	-	18	19	78	7	1	-	6	9	-	-	5	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.33	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	0.25	-	1.50	0.50	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	0.33	-	0.33	0.33	-	-	1.67	-	-	1.00	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.20	1.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	0.20	-	-	0.33	1.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	3.20	1.20	2.00	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	0.29	4.86	0.14	-	-	0.71	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	0.40	1.80	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	0.01	-	0.42	0.44	1.81	0.16	0.02	-	0.14	0.21	-	-	0.50	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第50週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年12月7日～2020年12月13日

データ入手日:2020年12月16日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		18	-	5	6	3	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19	-	1	1	1	2	2	1	2	1	1	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		78	2	8	6	11	12	2	7	2	1	2	4	10	1	10	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢3	7	-	1	-	-	1	-	1	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		6	-	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		9	1	-	2	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.42	-	0.12	0.14	0.07	0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.44	-	0.02	0.02	0.02	0.05	0.05	0.02	0.05	0.02	0.02	-	0.12	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.81	0.05	0.19	0.14	0.26	0.28	0.05	0.16	0.05	0.02	0.05	0.09	0.23	0.02	0.23	-	-	-	-	-	-
水痘	年齢3	0.16	-	0.02	-	-	0.02	-	0.02	0.05	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.14	-	0.05	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.21	0.02	-	0.05	0.09	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	年齢2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	0.30	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第50週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年12月16日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	1	-	-	1
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	6	7	7	9	18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	15	10	32	30	29	19
感染性胃腸炎	56	62	56	50	51	78
水痘	9	13	15	7	8	7
手足口病	3	7	3	6	-	1
伝染性紅斑	1	1	-	-	-	-
突発性発しん	9	12	15	14	17	6
ヘルパンギーナ	-	4	4	4	4	9
流行性耳下腺炎	-	-	1	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	1	1	-	5
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	96	116	135	119	119	144

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	0.01	-	-	0.01
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.07	0.14	0.16	0.16	0.21	0.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	0.23	0.74	0.70	0.67	0.44
感染性胃腸炎	1.30	1.44	1.30	1.16	1.19	1.81
水痘	0.21	0.30	0.35	0.16	0.19	0.16
手足口病	0.07	0.16	0.07	0.14	-	0.02
伝染性紅斑	0.02	0.02	-	-	-	-
突発性発しん	0.21	0.28	0.35	0.33	0.40	0.14
ヘルパンギーナ	-	0.09	0.09	0.09	0.09	0.21
流行性耳下腺炎	-	-	0.02	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	0.10	0.10	-	0.50
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	2.23	2.77	3.21	2.84	2.77	3.72

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。